The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年11月号　通巻35号　毎月1日発行　購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海　発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

これがセンサーカメラだ！

雨にも負けず風にも負けず働きます

(左)三脚に設置したセンサーカメラ。脚に巻き付けているのは模造植物。水のはいった2リットルのペットボトルをポリ袋に入れて重しにしている。全高は約75cm。
(右)雨どいに設置したセンサーカメラ。高い位置に設置できるので、タヌキに警戒されにくい。

東京タヌキ探検隊！では動物などを自動撮影する装置「センサーカメラ」を設置させていただける場所を募集していますが、そのセンサーカメラがどのようなものなのかまだ紹介していませんでした。今回はセンサーカメラの写真といっしょに説明していきましょう。

センサーカメラの構造

私が使用しているセンサーカメラは麻里府商事社製で、2008年のモデルです。本体上部にセンサーがあり、赤外線を感知するとデジタルカメラを起動させ写真を撮ります。本体とセットで販売されているデジタルカメラは市販の製品で、オリンパスのμ1030SWです(デジカメは次々に新製品が登場するので、付属のデジカメも毎年変更されています)。デジカメはシャッター部分が改造されていてセンサーカメラ専用として使うようになっています(普通のデジカメとしてはちょっと使えない)。同社のセンサーカメラは2011年のモデルでは5万円台の値段となっていて、気軽に買えるようなものではありません。

センサーカメラは山林内で数日から数週間放置しておくのが基本的な使い方ですので多少の悪天候には十分耐えられるものになっています。デジカメも防水仕様です。

センサーカメラの設置方法

山林でセンサーカメラを設置するならば木の幹や枝に固定する方法が一般的です。住宅地ならば雨どいや適度に細い樹木にカメラ用クリップで固定します。ただ、都合がいい場所がないことも多く、そういう場合は三脚に設置します。三脚は強風の時に転倒するおそれがありますので、水を入れた2リットルのペットボトルをポリ袋に入れて重しとします。もし近くに柵など固定できるものがあれば、三脚の脚をそれにしばりつけて固定し、ペットボトルは使いません。三脚に模造植物を巻き付けているのはカムフラージュのためですが、効果があるのかは不明です。こんなものにだまされるほど野生動物は間抜けではないでしょうから、ただの飾りにすぎないかもしれません。しかし少しでもタヌキをだませればそれで十分です。

設置期間は1～2週間です。バッテリーがそれ以上持たないからです。もしタヌキなどがいるなら最初の数日以内に撮影できるはずですので、最低1週間設置できれば目的は果たせるでしょう。

センサーカメラで撮影すればタヌキの訪問の時刻がわかるなど行動パターンの解明に役立ちます。センサーカメラの設置にぜひご協力ください。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。
http://tokyotanuki.jp